



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第21号 (H22.10.7)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

# しつ じつ ごう けん 質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



## 市中体連が間近に！

10月8・9・10日の3日間にかけて第34回都城地区中学校秋季体育大会が行われます。本校からは、男子バスケット部、バドミントン部、柔道が参加します。

私は、勝っても負けても爽やかでありたいと思います。自分たちのプレーをして勝ち、自分たちのプレーをして負ける。勝負の世界は一般的に強い方が勝つものでありますが、その中で自分たちが今まで練習してきたことを試合に出し尽くすことができれば、負けても後悔は少ないのではないかと思います。



バドミントン部



男子バスケット部

ここで大切なことが「心」の有り様です。「平常心」で戦うとよく言われますが、相手が強くなればなるほど難しいものです。私は、挑戦する気持ち、攻撃する気持ちが大切であると思います。

あの有名な野球選手のイチローがこんなことを言っています。中学時代、野球をしていたころ、点数に絡む場面で打者となるとき「打てなかったらどうしよう」、ピッチャーをしているとき「打たれたらどうしよう」などよく考えたそうです。大事なとき自分の打席に回ってこなければいいのに、自分のおもところうまく投げられたらどんなにいいのにと。そのようなときはあまりいい結果は出なかったそうです。つまり、「初球からねらっていくぞ」「ヒーローは俺だ」「必死に練習してきた自分を信じよう」など**攻める姿勢、プラス思考が大切です**。試合中はなかなか難しいですが、「挑戦する」「攻撃する」など強い気持ちとプラス思考でできるだけ平常心を保持して戦って

くれること、悔いのない試合をしてくれることを祈りたいです。みんな頑張り！

くれること、悔いのない試合をしてくれることを祈りたいです。みんな頑張り！

男子バスケット部

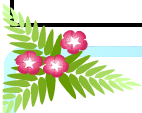
会場：山田中学校体育館 試合：8日(妻ヶ丘中) 9日(姫城中)

バドミントン部

会場：高崎総合体育館 試合：8日(妻ヶ丘中・三股中・高崎中・夏尾中)  
9日(個人戦：藤岡・大井・伊勢・益留)

柔道

会場：都城市営武道館 試合：10日(個人戦：渡邊)



### 附属中生の輝き！

- 赤い羽根図書・クオカード原画入選：小野陽正
- 明るい選挙標語書道展入選 銅賞：鳥集佑子
- 青少年の主張宮崎県大会 佳作
- 西川竜星 「川を守っていこう」
- 木脇英嗣 「日本の受け継いだ文化 将棋」
- 吉永愛里彩 「ボランティアの贈り物」
- 溝口凱斗 「鉄道の力を再認識しよう」

### 福祉体験活動「点字」の経験



10月5日に点字の体験活動を実施しました。

講師に都城点訳・音訳友の会点訳部の日高先生・池田先生・上原先生・永山先生をお迎えしました。まず「た

んぼ」の詩を点字にする活動から始まり、子どもたちは熱心に、楽しそうに取り組んでいました。点字は、触覚によって読むことが可能となるよう、凸点を組み合わせて文字体系とした、視覚障害者用の文字です。縦3点×横2点の6点の各点の組み合わせによってできる63種類を基本に点字組織を形成しています。視覚障害関係の間では、この点字に対して、一般の文字のことを墨字（すみじ）ということが多いそうです。

## ある本との出会い

最近読んだ本で、坂村真民さんの著書「坂村真民一日一言」で書かれた詩を紹介します。

### 赤ん坊のように

どうでもいいという人間からは      なにも生まれてはこない  
そういう生き方からは      なにも授かりはしない  
祈るのだ      願うのだ      赤ん坊のように  
いのちの声を      はりあげて      呼ぶのだ



この詩を読んだ時、まず私は、「おなかがすいたからおっぱいちょうだい」とか「うんこして気持ちが悪いからおしめを替えて」とか、顔を真っ赤にして一生懸命に泣き叫び、お母さんと呼んでいる赤ちゃんの顔を想像しました。

私たちの周りには物があふれています。ほしいときは親にねだったり、お小遣いで買ったりして簡単に手に入れることができます。しかし、赤ちゃんは違います。しゃべれないし、動けないだから赤ちゃんは、自分の一つの願いをかなえるために純粋に必死になって、いのちの声をはりあげて呼びます。

今の私たちに、この赤ちゃんのように必死になって祈ったり、願ったりすることがどれくらいあるでしょうか。多くのものは、必死に努力しなくても簡単に手に入れることができます。簡単に願いがかなうから、努力したような気持ちになったり、根気強く努力することがおっくうになったりしていないでしょうか。そういう生活に慣れているので、もう少し努力すればかなえることのできる願いがなわなないでいるのかもしれませんが、知らないうちに楽を選択するようになっているのかもしれません。

しゃべれない、動けない赤ん坊が、伝わるまで必死になって泣き叫ぶその姿。

「祈るのだ 願うのだ 赤ん坊のように いのちの声をはりあげて呼ぶのだ」

どうでしょう。大人も子どもも自分の生活を振り返ってみましょう。

泣くしか方法がない赤ん坊の生きざまから何かを学ぼう。そうすることで、自分の生活がもっと楽しく充実するかもしれません。

一冊の本の一つの詩からこんなことを考えてしまいました。もっと大きな衝撃を受ける本に出会うかもしれません。多感な今の時期、いろいろなジャンルの本を読んでみてはどうでしょうか？

